

会 議 要 録

会議名称	平成25年度 第1回 市史編さん委員会
開催日	平成26年3月26日(水) 午後1時30分～2時50分
会場	佐倉市役所1号館3階会議室
出席者	・市史編さん委員 浦田啓充委員長 近森正委員 堀越正行委員 五十嵐公一委員 白土貞夫委員 中澤恵子委員 内田儀久委員 岩淵令治委員 (事務局) 橋口庄二総務課長 丸島正彦副主幹 土佐博文副主幹
記録作成	丸島正彦

会 議 内 容

- 会 議 (1) 『佐倉市史』考古編の刊行について
- ・専門部会の活動について(資料①)
〔近森委員〕
専門部会(年4回)の会議内容及び時代別部会による会議・調査(35回実施)の状況を報告。平成20年の考古専門部会の発足以来、約6年で刊行に至った。
 - ・考古編の体裁と内容について(『佐倉市史』考古編の見本を回覧)
〔事務局〕
考古編の体裁と内容について説明
表装や題字等の基本的な体裁は、今までの『佐倉市史』を踏襲した。書式と規格については、横書きA4判、本編と資料編の1ケース2分冊となる。本編は440頁、序章の「佐倉と考古学」、第1章「旧石器時代—最古の狩人—」、第2章「縄文時代—土器を使う生活のはじまり—」、第3章「弥生時代—農耕文化のはじまりと集落の様子—」、第4章「古墳時代—前方後円墳の時代—」、第5章「奈良・平安時代—文字世界の幕開け—」、第6章「中・近世—北総の中心となった佐倉—」という構成。旧石器時代から中近世、及び一部近・現代まで含む、佐倉の歴史を考古学の視点で著述した内容となっている。特に「分かり易い表現」と「当時の生活の復元」という編さん方針に留意し、写真と図版を豊富に掲載、本文の内容の補完するコラムを多用している。資料編は465頁、冒頭に各時代の解説、市内各地区の主要な遺跡合計78遺跡を紹介する「主な遺跡」と、付録のDVDに収録した、各時代の特徴的な遺物・遺構の表及び図版を集成する「資料集成」と、科学的分析結果の報告データの「分析報告」で構成される。DVDには無断複製を防ぐ目的として、コピーガード処理を施している。
〔近森委員〕
約3万年にわたる佐倉の歴史を書くにあたって、資料も大量となることから、執筆には、多くの佐倉に関わる考古学関係者が携わっている。佐倉がどのような地域と交流があったか。科学的分析を取り入れて、他地域との交流の様相の解明に努めた。考古編については、昭和40年代の市史編さん事業の開始当時は、市史の通史の前半の一部として組み込むこととなっていたが、その後で大規模な開発が相次ぎ、吉見台や井野長割、東関道など大量な考古資料が出土する遺跡が現れたため、市史の別編として考古編を作ることに方針が変わった。以来、40年以上経過したが、今日に至って、考古編を刊行できたことは、非常に感慨深い。

[堀越委員]

『佐倉市史』考古編の特徴は、考古資料を使って、考古学的な観点で通史的に自治体史を書くことであり、このようなことは、あまり例が無く先駆的な試みである。郷土史であるので、佐倉市域の郷土の身近な資料を用いるとともに、黒曜石の原産地分析やボーリング試料の古環境調査、土器の胎土分析など科学的な分析結果を取り入れて、当時の生活の復元に留意して記述している。本編は歴史の流れを語る読み物、資料編は、必要な集成を行って記録することを心掛けた。

・頒布価格について(資料②)

[事務局]

頒布価格については、「佐倉市刊行物の作成及び頒布に関する事務取扱要領」に基づき、有償刊行物の場合は、「原則として製作単価に相当する額を設定するものとする。」とあるので、印刷製本費等の製作単価を基に、頒布価格案を作成した。印刷製本費、掲載写真使用料、遺物や遺構の再実測・再トレースを行った図版作成委託料の合計に、1,000部作成なので1部あたりの経費は7,500円になる。第4回考古専門部会でも、過去の佐倉市史の単価との比較、千葉県史の単価や他市の考古編の頒布価格等、また、今回の考古編の規格などを勘案して、7,500円は適当な価格とのことであった。

[白土委員]

過去の市史の発行部数はどれくらいであったか。また、頒布の状況はどの程度であったか。考古編の頒布価格については、2分冊なので妥当かと思われる。

[事務局]

巻四は1,000部刊行。在庫の部数と無償頒布数から計算すると200~300部程度と思われる。民俗編は在庫の状況から、もう少し下回るかと思われる。考古編では、400部程度の有償頒布を見込んでいる。

[五十嵐委員]

歴史学習や地域を学ぶ郷土史資料としての提供という目的の観点から、本当に素晴らしいものができた。現在は地形等が改変されていて、地域とのつながりが実感できないが、考古編の記述では、人の動きやものの動きが強調されて、各時代における土地とのつながりがよくわかる。集落のかたちが時代とともに移り変わっていく様子がよく理解できる。

中学校教諭としての意見だが、社会科や総合的学習など地域を知る学習の資料として活用できるのではないか。佐倉地区は佐倉城関係の資料があるが、臼井・志津などの場合は、地域学習における適当な学習資料が不足していた。考古編はその点を補える、是非使っていただきたい資料である。教育現場の立場からいっても、意義の大きい事業であった。

[中澤委員]

人の動きと遺跡の関係がよく表れていて、身近に感じられるような記述内容である。読みやすく、読み進めていくと知りたいことの答えが出てくる。考古学の観点で通史的に歴史を綴るということは、文献史の立場と同じであり、考古学が身近に感じられた。

[近森委員]

考古編の刊行については、市史編さん事業の開始から40年以上かかってしまったが、その間、考古学は限りなく現代に近づいてきて、古代から中近世、明治・大正・昭和までがその対象となってきた。現在とのつながりが増してきているともいえる。

その意味では、40年以上かかったことがかえって良かったのではとも思われる。

〔岩淵委員〕

江戸時代を研究する立場として、物質文化を通して近世まで含めていることは画期的である。特に村落の調査は事例が少ないので、農民の住居の発掘の事例や炭焼き・落とし穴等の事例を、通史的に本編に書かれていることは重要である。このことが、村落の調査の起爆剤となればよいと思う。

〔内田委員〕

考古編は、長年の佐倉市史の懸案であったが、時間がたったからこそ、大規模な開発によった得られた資料や新しい研究成果を含んで、読みやすく書かれている。素晴らしい内容となっている。

〔浦田委員長〕

『佐倉市史』考古編につきましては、刊行の承認を得たということで、4月から頒布を開始します。なお、価格については、7,500円とします。

(2) 今後の予定について

〔事務局〕

来年度は、4月から考古編の頒布にあたるとともに、9月には考古編刊行記念の講演会の開催を計画している。内容については、「(仮)考古学からみる佐倉」各時代の考古専門部会員によるリレー講演とパネルディスカッション等を考えている。市制60周年記念事業や教育委員会との連携も検討していきたい。

市史編さん事業の予定としては、今後は、市で保有または寄託されております近世や明治・大正期の文書等を整理した資料編が必要になってくるものと思われる。来年度は、こうした市史の資料編等も含めた考古編刊行後の編さん方針について、委員会で審議頂きたい。

〔白土委員〕

巻四の近現代編の編さんでは資料編は刊行しなかった。明治・大正期の文書もあらためて整理する必要がある。将来的な新修市史の編さんということも見据えて、資料編の作成や文書の整理は続行してもらいたい。

〔岩淵委員〕

近世編も同様に資料編がない。市の博物館がないのが残念なことであるが、歴史資料を蓄積して発信していくことは、市史編さんで継続して行ってほしい。資料編とともに佐倉市史研究の刊行も継続することを要望したい。

〔中澤委員〕

佐倉市は印旛地区でも注目されている。これからの歴史を繋いでいく意味からも、資料編の刊行は大事なことである。今までの通史編の巻一～巻四では本文中に資料を引用しているが、学校や研究機関では利用しづらい。市史編さん事業というのは記録を残していくことが重要で、資料が散逸する前に収録されることに意義がある。継続事業として、少しずつでも資料編の刊行を検討していただきたい。

〔白土委員〕

市史巻三で引用されていた資料が散逸してしまったケースがある。資料編として残すことが喫緊の課題である。

〔岩淵委員〕

資料編の刊行だけではなく、市史編さんとして収集した資料の公開等の問題もある。収集した資料の活用の窓口の機能も重要である。そういった組織についても検

お願いしたい。

〔中澤委員〕

むしろ、近代の文書こそ廃棄されやすいので、継続的な調査と刊行を続けていただきたい。

〔白土委員〕

戦後は、許認可権の保存年限の問題で官公庁の公文書であっても保存されていない状況がある。

〔近森委員〕

災害対策や土地所有の問題など、行政側のほうでも近世や近現代の文書が必要となっている。こうした歴史的文書を保存し、市民に公開する文書館は、ヨーロッパでは一般的である。市民サービスの一環として、佐倉市でも検討いただきたい。

〔事務局〕

資料編等については、事務局で検討を進め、委員の意見を伺いながら、具体的に進めていきたいと思う。